企画展 『藍染の型紙展』 パートⅡ

～波佐地方の紺屋の型紙 500 点～

波佐地方では、江戸時代（文政～天保）から代々紺屋職を営み村民の藍染を一手に行っていた。展示する型紙は、伊勢の白子型紙、京型紙、地元制作の型紙で、天保年間頃のものと見受けられます。型紙への印影から仕入問屋など流通が判ります。

型紙は、美濃和紙を用いて、柿渋で 3～4 枚を交互に重ね貼りした型紙紙に、錐彫、突彫、道具彫、縞彫の 4 通りの手法で 7～8 枚を重ねて、彫刻されたものです。図柄によっては、1 枚を仕上げるのに 1 か月を費やすこともあるそうです。

この型紙は、半永久的に使用・保存が可能だと言います。今回の展示は、500 点の中から前回の展示公開以外の代表的な図柄 60 点を展示します。

会　期：令和 5 年 6 月 3 日（土）～12 月 24 日（日）

会　場：浜田市金城歴史民俗資料館

開館日：土・日曜日　Am9:00 ― Pm5:00

入館料：大人 300 円、中学生 100 円、小学生 60 円

2 館共通券、団体割引 25 名以上。

※団体などの平日の入館希望の場合は、前日までに電話予約をお願いします。
浜田市金城資料館指定管理者　☎ 090-4697-2818（西中国山地民具を守る会）

紺屋の型紙の一部